

# 今年の7月1日は1秒ながい ○「うるう秒」挿入

総務省は、平成27年（2015年）7月1日（水）に3年ぶりとなる「うるう秒」の調整を行うと発表しました。平日の実施は1997年以来18年ぶりとなります。

◆今年の7月1日、午前8時59分から午前9時00分にかけては、



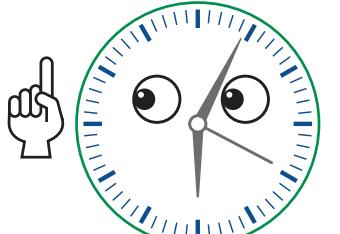
時刻はかつて地球の公転・自転に基づく天文時から決められていましたが、1958年から原子の振動を利用した原子時計に基づく国際原子時が開始され、1秒の長さが高精度なものとなつた結果、原子時計と天文時の時刻との間にずれが生じるようになりました。

そこで、原子時計と天文時のとのずれが0.9秒以内におさまるように定期的に調整を行うようになり、今年は26回目のうるう秒の挿入が行われるものです。

## （参考）うるう秒実施日一覧

第1回	昭和47年（1972年）7月1日
第2回	昭和48年（1973年）1月1日
第3回	昭和49年（1974年）1月1日
第4回	昭和50年（1975年）1月1日
第5回	昭和51年（1976年）1月1日
第6回	昭和52年（1977年）1月1日
第7回	昭和53年（1978年）1月1日
第8回	昭和54年（1979年）1月1日
第9回	昭和55年（1980年）1月1日
第10回	昭和56年（1981年）7月1日
第11回	昭和57年（1982年）7月1日
第12回	昭和58年（1983年）7月1日
第13回	昭和60年（1985年）7月1日

第14回	昭和63年（1988年）1月1日
第15回	平成2年（1990年）1月1日
第16回	平成3年（1991年）1月1日
第17回	平成4年（1992年）7月1日
第18回	平成5年（1993年）7月1日
第19回	平成6年（1994年）7月1日
第20回	平成8年（1996年）1月1日
第21回	平成9年（1997年）7月1日
第22回	平成11年（1999年）1月1日
第23回	平成18年（2006年）1月1日
第24回	平成21年（2009年）1月1日
第25回	平成24年（2012年）7月1日
第26回（今回）	平成27年（2015年）7月1日



## 全国定住自立圏構想推進シンポジウムin但馬

弊会では、総務省が推進する「定住自立圏構想」についてポータルサイトを開設し（<http://www.kokudo.or.jp/service/teijyu.html>）、その内容と今後の取り組み、並びに関連した情報を紹介しています。

今号では、去る1月に総務省、兵庫県、豊岡市主催で開催されました『全国定住自立圏構想推進シンポジウムin但馬』のご紹介をします。

### 開催報告

主 催：総務省、兵庫県、豊岡市

開催日時：平成27年1月30日（金）13:30～17:20

開催場所：城崎国際アートセンター 大ホール（兵庫県豊岡市城崎町湯島1062）

対 象：市町村長、地方自治体職員、定住自立圏取組関係者、地域住民等

参加者数：288人

### 開催趣旨

総務省では、中心市と近隣市町村が相互に役割分担し、連携・協力することにより、圏域全体として必要な生活機能を確保する「定住自立圏構想」を推進しています。今回は、定住自立圏における最新の動向を紹介するとともに、基本的な考え方や先進事例の発表、課題共有を行うことで、議論を深め、各圏域の取組に展開していくことを目的として開催しました。

### シンポジウムプログラム

13:30～13:40	開会、主催者挨拶
13:40～14:40	基調講演「『定住自立圏構想』がつくる地域の未来」 講演者：明治大学農学部教授 小田切 徳美 氏
14:55～15:25	取組事例報告「豊岡の挑戦～但馬定住自立圏の確立に向けて～」 報告者：豊岡市長 中貝 宗治 氏
15:25～15:40	総務省報告「定住自立圏構想の全国の進捗状況について」 報告者：総務省地域自立応援課長 佐藤 啓太郎 氏
15:50～17:20	パネルディスカッション「但馬に誇りと夢を～但馬に定住する～」 パネリスト：脇浜 紀子 氏 新免 将 氏 西村 総一郎氏 吉原 刚史 氏 コメントーター：小田切 徳美氏 中貝 宗治 氏 コーディネーター：佐藤 啓太郎氏 農業生産法人（株）Teams 代表取締役 株式会社西村屋 代表取締役社長 朝来市地域おこし協力隊員 明治大学農学部教授 豊岡市長 総務省地域自立応援課長

# 全国定住自立圏構想推進シンポジウムin但馬の結果概要

開催日時：平成27年1月30日(金) 13:30～17:20

開催場所：城崎国際アートセンター 大ホール 参加者数:288人

基調講演

明治大学農学部教授 小田切 徳美氏 「『定住自立圏構想』がつくる地域の未来」

地方は、ある側面ではとても強靭である一方、また別の側面から見るととても脆弱であると言える。地方のそいつた性格を踏まえると、定住自立圏とは、弱さを支え合い、強さを伸ばす仕組みと捉えることができる。今回の地方創生という流れを一過性のブームとせず、今後も国民の関心を持続させていくことが、定住自立圏を前進させていくためにも必要であり、全国で定住自立圏を定着させていくことで、「都市・農村共生社会」の構築という日本の新たな方向性を実現させていくことにつながる。

取組事例  
報告

豊岡市長 中貝 宗治氏 「豊岡の挑戦～但馬定住自立圏の確立に向けて～」

但馬定住自立圏において、最大の課題は産科医療体制の確保である。産婦人科医師一人当たりの負担が大きい但馬地域の現状を解消するため、平成27年1月には医師会等と連携して「但馬こうのとり周産期医療センター」を整備するなど、必要な医師数の確保と地域医療体制の充実に取り組んできたところ。今後は、人口減少に歯止めをかけるための政策手段として、定住自立圏の枠組みを活用し、圏域で連携して地方創生に向けた取組を実施してまいりたい。

総務省  
報告

「定住自立圏構想の全国の進捗状況について」

定住自立圏構想については、来年度(平成27年度)にこれまでの取組成果について検証をしっかりと行っていくこととしているが、先行的に取り組む圏域を対象に人口の社会動態を分析したところ、ほとんどの圏域で人口の社会減が縮小している結果が出ている。定住自立圏が地方創生の柱として、人口減対策の切り札、定住の受け皿となるよう制度の充実・改善に努めてまいりたい。

パネル  
ディス  
カッション

「但馬に誇りと夢を～但馬に定住する～」

脇浜 紀子氏 讀賣テレビアナウンサー、博士(国際公共政策)(パネリスト)

定住自立圏の推進に向けて、地域に誇りを持たせ、一体感を醸成させるための情報発信が重要ではないか。例えば、圏域が共同して但馬テレビ局を立ち上げ、圏域で情報発信していく力を育むことが今後効果的だと考える。

新免 将氏 農業生産法人(株)Teams代表取締役(パネリスト)

但馬地域に行きたいと思わせる仕掛けづくりが重要。そのために、まずは圏域内外で但馬の魅力を知ってもらうとともに、特に、地元の若者が帰って来て活躍できるような場の提供をしていくための仕組みが必要だと考える。

西村 総一郎氏 株式会社西村屋 代表取締役社長(パネリスト)

高齢化している地域の働き手の現状を踏まえると、今後はいかに人に定住してもらうかを考えていくことが大事。働き手には企業の枠を超えてまちづくりに参画してもらい、企業経営も地域もボトムアップで活性化させていきたい。

吉原 剛史氏 朝来市地域おこし協力隊員(パネリスト)

地方へ定住を希望する若者は、何かしらの期待を地方に抱いている。地方が定住先となるためには、その期待に応えられるライフスタイルを作り出すことができる環境を提供することが重要。

## 『但馬定住自立圏』について

今回取り上げた「但馬定住自立圏」についてご紹介します。

構成市町村 豊岡市(中心市)・養父市・朝来市・香美町・新温泉町

中心市宣言日 平成23年3月24日 協定等締結日 平成24年7月3日

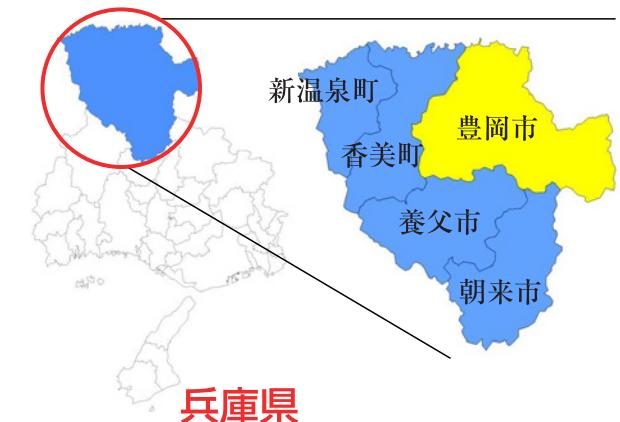
### 圏域の概況

但馬区域(兵庫県豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町)は兵庫県北部に位置し、北は日本海、西は鳥取県、南は播磨地域及び丹波地域、東は京都府に隣接し、県土の約4分の1を占める広大な地域である。豊かな自然環境に恵まれ、山陰海岸国立公園、氷ノ山後山那岐山国定公園及び4つの県立自然公園がある。水量豊かな円山川をはじめ竹野川、矢田川、岸田川などが日本海にそいでいる。山陰海岸ジオパークは、京都府から鳥取県にかけての東西約110キロメートルにかけて、貴重な地形・地質遺産が数多く形成されており、平成20年に「日本ジオパーク」として認定を受け、平成22年には、「世界ジオパークネットワーク」への加盟が認定された。

古代の但馬は、「天日槍」の渡来伝説との関係が深く、日本の文化・経済の表玄関であったと言われている。奈良時代には、但馬地域も但馬国となり、その中心地が但馬国府として豊岡市日高町に置かれたほか、江戸時代には、出石・豊岡・村岡に藩が、生野銀山には代官所が置かれた。さらには、竹野、香住などが西まわり北前船の寄港地として栄えた。

但馬定住自立圏の中心市である豊岡市は、平成17年4月1日、兵庫県の北東部に位置する1市5町(豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町)が合併したまちで、約698平方キロメートルと県下最大の面積を有している。平成17年9月には、国指定の特別天然記念物・コウノトリが自然放鳥され、平成19年5月には、国内の自然界では43年ぶりにヒナが誕生するなど、人里で野生復帰を目指す世界的にも例がない壮大な取組が着実に進んでいる。

産業は、農林水産業、観光業などが盛んで、特に観光業では、木造3階建ての旅館を有し、和風情緒の街並みが残る“奇跡の温泉街”と評価を受けた城崎温泉をはじめ、西日本屈指の神鍋高原スキー場、但馬の小京都・出石城下町などを有し、年間の観光客は500万人以上にのぼっている。また、地場産業としては、全国4大産地の一つである「かばん」や国の伝統的工芸品「出石焼」などの生産が行われている。



### 全国の取組状況(平成27年5月22日現在)

中心市宣言 107市 中心市宣言を行った市の数

定住自立圏 90圏域 定住自立圏形成協定の締結又は定住自立圏形成方針の策定により形成された定住自立圏の数

ビジョン策定市 88市 定住自立圏共生ビジョンを策定した宣言中心市の数